

年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 9割以上の児童が進んで読書活動に取り組んでいるが、物語や学習漫画など本の種類の偏りを小さくしていくこと。 既習の漢字を正しく書くことができる児童は多いが、漢字、ひらがな、カタカナを使い分けて書くことに課題がある。 全体で話し合う学習場面では、自分の意見に自信をもって、発言できるようにしていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館から学習内容にあった図書を選出し、様々な本に触れる機会を意図的につくる。 絵日記や作文を書く活動で、文章を書いた後、友達の作品と交換し、正しい表記であるか読み合い、教え合う場面を設定し、使い分けの知識を増やしていく。 話し合うポイントを具体的に示したり、話し合いを始める前に少人数で意見を共有してから、全体で話し合うことで、発言への不安を減らし、苦手意識を低減する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章問題の題意を捉え、立式することはできるが、どのように考えたのかを表現することが十分ではない。 長さ（mm, cm, m）や水のかさ（mL, dL, L）の単位の換算をスムーズにできるようにすること。 自分の考えを図や数字、言葉、式などで分かりやすく伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 立式することだけでなく、既習事項をもとに図や言葉を用いて考え方を表現することを毎時間取り入れる。 確実に単位換算できるまで、チャレンジタイムを中心に、繰り返し練習する。 実物投影機などを活用し、分かりやすい表現の仕方を価値付けて共有していく。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや考えたことを絵や文で表す力に個人差がある。 様々な人と進んで関わり、新しい問いをもったり、気付きを広げたりすること。 身近な地域にある施設や店、会社などについて進んで調べ、日常生活と結び付けて考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 見えたものを見えた通りに絵で描いたのか、考えたことの根拠は何かなど、問いかけながら深く考えさせる。 多様な人と関わって気付きを広げられる活動を計画的に設定する。 児童の日常生活に結び付けられるように、地域と連携する単元計画を立てる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 身近で簡単な楽器で表現することができる。しかし、鍵盤ハーモニカや木琴等で鍵盤に触れる機会を多くもち、音の高さや長さに注目して演奏できるようにすること。 鑑賞する場面では、曲の楽しさを見いだして聴くことのできる児童が多いが、表現方法の違いに気付かせていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの指使いや息遣いについては、個別に吹く時間を設定するとともに、家庭学習で取り組めるようにする。また、授業では活動場所を分散させた上でグループ学習を行い、お互いの演奏を聞き合う時間を設定する。 鑑賞教材では、様々な表現方法に気付けるような提示をする。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動を楽しむ児童は多いが、発想を広げたり深めたりすることができる児童は少ない。 道具（のり・はさみ・クレパス・水彩絵の具・カッター）の基本的な使い方を身に付いているいくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びながらつくったり、つくったもので遊んだりできる題材を設定する。 題材設定時に、使用する道具や材料の目的やねらいをはっきりとさせ、スモールステップで取り扱いを身に付けられるよう学習の展開を工夫する。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動が好きな児童をさらに増やすこと。 自分のめあてを立てたり、振り返って改善すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びや体づくりの運動を学習の中に多く取り入れ、児童の意欲を高めながら、学習を進める。 学習カードを活用して、自分のめあてを立てたり、学習を振り返ったりする経験を多く積み重ねる。 	